

「京都観光振興計画 2025」 指標と目標

1 指標と目標

【指標と目標について】

本計画の推進に当たっては、京都観光の目指すべき姿の実現に向けた進捗を測る指標及び到達点としての目標を設定し、定期的に数値を測定（進捗状況を可視化）及び確認・評価したうえで、PDCA サイクル（計画・実行・評価・改善）を活用し、新たな改善策の立案、実施を徹底していくことが重要である。

そのため、本計画第3章に掲げた「2030年に実現を目指す5つのまちづくりと観光」の柱ごとの指標及び目標値の設定について検討を行う。

＜2030年に実現を目指す5つのまちづくりと観光＞

- (1) 市民生活と観光の調和が図られ、市民が豊かさを実感できる。
- (2) あらゆる主体が京都の「光」※を磨き上げ、観光の質を高める。
※平安建都以来 1200 年を超える歴史に培われた文化、芸術、自然、学問、食、産業、知恵、人や暮らしなど
- (3) 観光の担い手がより活躍し、観光・文化分野での起業・新事業創出が盛んになり、都市の活力向上や文化の継承に寄与する。
- (4) 感染症や災害などの様々な危機に対応できる、しなやかで力強く、安心・安全で環境に配慮した持続可能な観光を実現させる。
- (5) MICE 都市としての魅力を確立し、世界の人々が集い、多様性を認め合い、世界平和に貢献するまちになる。

【指標の追加及び目標値の設定について】

令和3年3月の「京都観光振興計画2025」策定段階において、新型コロナウイルス感染症の影響や回復見込みが極めて不透明であったため、指標及び目標値については確定していない。

本計画の進捗管理を行う「京都観光振興計画2025」マネジメント会議において、回復状況を見据えながら、改めて指標の追加と目標値の設定の検討を行う。

2 指標

<調査方法>

【観光客調査】 京都観光総合調査（H23以降実施中）

【市民調査】 市民意識調査（R1に市政総合アンケートとして試行実施，R3実施予定）

【事業者調査】 観光事業者調査（未実施，R3実施予定，従事者向けも試行実施予定）

【経済センサス】 基礎調査（産業や従業者規模，5年毎(09→14→19)に実施）

【経済センサス】 活動調査（売上高や費用等，概ね4年毎(12→16→21)に実施）

【観光庁モデル】 観光庁 MICE 簡易測定モデルの活用

(1) 計画に記載の指標

※現況値は注記がない限り令和元年（コロナ禍前）の数値を記載

	計画に記載の指標	調査方法	現況値	備考
1	市民生活と観光の調和が図られ，市民が豊かさを実感できる。			
市民生活への影響	混雑	市民調査	経験する：71.5%	公共交通混雑
		市民調査	経験する：65.9%	観光地混雑
		市民調査	経験する：65.4%	道路混雑
	マナー	市民調査	経験する：57.6%	ポイ捨て，食べ歩き等
	宿泊施設	市民調査	経験する：44.6%	騒音，ゴミ等
3つの分散化	時期	観光客調査	月別繁閑差：1.3倍	
	時間	観光客調査	朝：14.1% 夜：18.0%	訪問時間
	場所	観光客調査	清水祇園：53.9% 嵯峨嵐山：23.2% 山科：2.2% 大原：2.1% 高雄：1.3%	日本人訪問地割合
観光による地域貢献	公共交通	観光客調査	日本人：2,091円 外国人：3,322円	観光消費額 市内交通費単価
	文化の維持・継承	観光客調査	未調査	
市民による観光	実施状況	市民調査	42.8%	半年に1回以上
	満足度	市民調査	未調査	

	計画に記載の指標	調査方法	現況値	備考
2 あらゆる主体が京都の「光」を磨き上げ、観光の質を高める。				
	観光消費額単価	観光客調査	日本人:20,267円 外国人:37,437円	
	残念なことがあった割合	観光客調査	日本人:44.7% 外国人:16.3%	
	リピーター率	観光客調査	日本人:59.1% 外国人:22.4%	日本人:10回以上 外国人:2回以上
	宿泊率	観光客調査	日本人:21.0% 外国人:42.9%	
	平均宿泊日数	観光客調査	日本人:1.38泊 外国人:2.18泊	
3 観光の担い手がより活躍し、観光・文化分野での起業・新事業創出が盛んになり、都市の活力向上や文化の継承に寄与する。				
観光事業における 正規雇用率	宿泊業	経済センサス	16年:47.1%	
	飲食業	経済センサス	16年:21.5%	
	観光事業者	事業者調査	未調査	
観光事業従事者の満足度		事業者調査	未調査	仕事のやりがいや誇り等
賃金を増加させた事業者の割合		事業者調査	未調査	
商品・単価が上昇した観光事業者の割合		事業者調査	未調査	
地域貢献に取り組む観光事業者の割合		事業者調査	未調査	
観光事業者におけるデジタル化の推進状況		事業者調査	未調査	
4 感染症や災害などの様々な危機に対応できる、しなやかで力強く、安心・安全で環境に配慮した持続可能な観光を実現させる。				
BCPなど危機管理に関する計画を策定している観光事業者の割合		事業者調査	未調査	
観光事業者における防災・防火訓練等の実施状況		事業者調査	未調査	
公共交通利用割合(入洛時)		観光客調査	91.0%	鉄道・バス利用者
環境に配慮した取組の実施状況(観光客)		観光客調査	未調査	
環境に配慮した取組の実施状況(観光事業者)		事業者調査	未調査	

	計画に記載の指標	調査方法	現況値	備考
5 MICE 都市としての魅力を確立し、世界の人々が集い、多様性を認め合い、世界平和に貢献するまちになる。				
	国際会議件数	ICCA 基準	ICCA 統計	67 件
		JNTO 基準	JNTO 統計	383 件
	海外参加者数		JNTO 統計	30,585 人
	国際会議消費額（経済効果額）		観光庁モデル	235 億円
	国際会議による延べ宿泊客数	MICE 調査	未調査	

(2) 追加の指標

3 目標値の設定